

令和2年度鳥獣被害対策支援活動報告会

かながわ鳥獣被害対策支援センター

令和2年度鳥獣被害対策支援活動報告会

目 次

I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について

- 1 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区の概要…………… 1
- 2 令和2年度から始まった重点取組地区について
 - (1) 相模原市緑区 澤井、佐野川地区…………… 6
 - (2) 横須賀市津久井地区…………… 9
 - (3) 山北町清水、三保地区…………… 11

II 支援センターによる新たな取組事例

- 1 野生動物を対象とした自動撮影カメラのデータ回収及び解析…………… 13
- 2 農林業地域に隣接した市街地に出没する野生動物の傾向と対策…………… 14
- 3 クリハラリスを対象とした多頭捕獲罠の試行…………… 16
- 4 ニホンザルに係る専門的な技術的支援…………… 17
 - (1) 【S群】除去群の捕獲完了に向けた新たな捕獲手法の試行
 - (2) 【H群】カンキツ園における効果的な防護方法についての検討
 - (3) 【T1群】加害個体緊急捕獲
 - (4) 複数頭捕獲罠の試行

- 参考資料…………… 22

I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について

1 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区の概要

(1) 「地域ぐるみの対策」の立ち上げ支援

市町村や地域住民等が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」を普及していくため、「重点取組地区」を選定し、技術的支援を行っている。

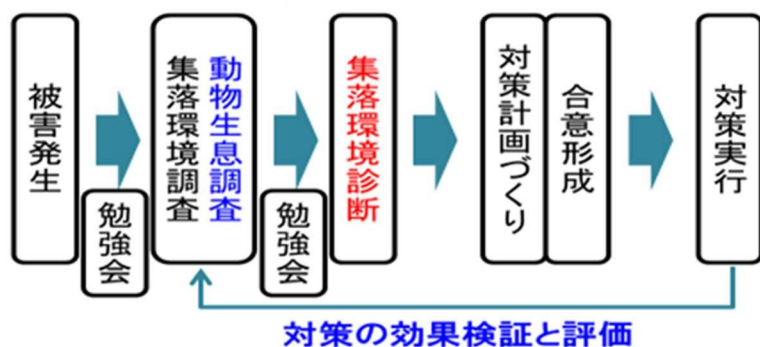
令和2年度は、新たに3地区を追加選定し、令和元年度までに選定した18地区と合わせて21地区で取組を進めた。

(2) 重点取組地区の対策の進め方

被害が発生している地域の現状を把握し、必要な対策について合意形成を図りながら計画を作成し実行するとともに、対策の効果検証と評価を行いながら、地域の自立を促す。

また、「地域ぐるみの対策」の普及を図るため、重点取組地区の対策の効果を広く周知するとともに、他の地域の住民が参加できる現場での被害対策技術講習会を開催する。

対策実行の手順 ※耕作地単位の被害箇所数の変化等により具体的な効果を把握



※耕作地単位の被害箇所数の変化等により具体的な効果を把握



集落環境診断
(令和元年6月5日 清川村金翅地区)



ドローンを活用した集落環境調査
(平成29年11月22日：大磯町西久保地区)の様子

(3) 重点取組地区の選定

<選定の視点>

次の視点で今年度の重点取組地区を選定した。

- 鳥獣種及び地域的に地域ぐるみの対策の空白域となっている。
- 鳥獣による人身被害が懸念されるなど、緊急に解決すべき問題がある。
- 侵略的な外来生物等の被害の初期段階にある。
- 他施策との連携により対策の相乗効果が期待できる。

<令和2年度に選定した重点取組地区>

◆ 令和2年度～【3地区】

項番	地区名	主な対象鳥獣	令和3年3月末現在の取組状況	選定の視点
1	相模原市緑区澤井、佐野川地区	サル、イノシシ	直売や芋掘り等の消費者交流型の農業生産が盛んな地域で、捕獲を中心とした対策を行っているが、管理不足の山林や収穫残さの放置等により被害が軽減していない。 佐野川下岩地区をモデルとして5月に集落環境調査を実施し、既に設置されている電気柵の改善方法と併せて9月に回覧周知した。下岩以外でICTを使ったイノシシ対策やサル複数頭捕獲の試行が行われ、有効な手法として次年度地域に周知を予定している。	a、b
2	横須賀市津久井地区（農協推薦）	ノウサギ、ヒヨドリ等	キャベツを中心とした秋冬春野菜へのノウサギやヒヨドリなどによる被害が発生しているが十分な対策が行われていない。 5月に集落環境調査を実施し、8月にネット被覆による防護技術展示 ^{*1} を設置し、被害の発生はなく収穫に至った。また、10月に周辺の藪刈りを行った。これらの結果を1月に地域に回覧周知し、3月に営農連絡会 ^{*2} で情報提供した。	a、d
3	山北町清水、三保地区	サル	直売農家と茶園の多い地域で、サル等による被害が恒常化し、町の追払い活動が行われているが生活被害も拡大しつつある。 谷ヶ地区をモデルとして6月に集落環境調査を実施し、自治会役員と関係機関で対策の進め方を協議した。9月に勉強会を実施、11月からサルの捕獲ワナの地域見回りが始まり、併せて管理講習を11月と1月に実施した。3月にサルの追払い研修を実施し、本年度の取り組み結果を踏まえた意見交換を行った。	a、b

※1「展示ほ」：実際の農地に電気柵等の侵入防止技術などを展示し、その効果を実証するためのほ場
 ※2「営農連絡会」：行政C単位で開催される主として農業技術センターが主催する農政関係者の会議

<これまでに選定した重点取組地区での取組>

各地区とも取組の体制が構築され、次のような取組が行われている。

令和元年度選定された地区は、課題に応じた実践的な対策の進め方を周知した。その他の地区は、自主的な取組状況を集落環境調査により把握し、ICTの活用等の新たな技術に係る情報提供や防護柵の設置計画、捕獲わなの運用といった、技術面でのフォローアップを行った。

◆ 令和元年度～【7地区】

項番	地区名	主な対象鳥獣	令和3年3月末現在の取組状況	選定の視点
1	川崎市麻生区岡上地区	アライグマ、ハクビシン	集落環境調査等の結果をもとに対策の提案を行った。地域の方が捕獲を継続しているため被害は軽減した。R2年度は自主的なカラス対策や、10～12月麻布大学によるタヌキの行動域調査等が行われた。同時期に生息が確認されたクリハラリスの捕獲（3月、2頭）活動等と合わせて月に1回程度技術指導を行っている。	a、c
2	相模原市緑区鳥屋（とや）地区	イノシシ、サル、シカ	集落環境調査等の結果をもとに対策の提案を行った。支援センターの助言のもと、農業技術センターが展示ほで設置した電気柵を使って研修会を行った。R2年度は実施後の集落環境調査結果と	b、d

			支援した概要を地区内に周知した。鳥屋ふれあいの館等でイノシシ対策にかかる啓発資料の掲示がされた。リニア開発の影響把握も兼ねて継続したセンサーカメラ調査を行い、市に情報提供している。	
3	厚木市 小野、七沢、上古沢、下古沢、森の里地区	サル	地域のサル追い払い員等とデータベース化に伴うフォーマット作成に係る意見交換を行い、システム化に向けた課題整理を行った。GPS首輪情報の継続した提供を行うことで、対象地域の群れ（煤ヶ谷群）の除去に向けた捕獲が急速に進んだ。R2年度は周辺の群れが襲来しないよう首輪更新等を行い随時技術指導を行っている。	a,b,d
4	綾瀬市 深谷上地区	アライグマ	集落環境調査結果を基に被害が多い工場へアドバンスやアライグマ専用捕獲器による試行を通じた対策方法を講習した。この結果、適切なな管理や環境整備が行われ被害が減少した。地域では、侵入経路となっている施設破損部分の修繕が予定され、継続した捕獲活動が行われている。	a,c
5	清川村 金翅(こんじ)地区	イノシシ、サル、シカ	集落環境調査等の結果をもとに対策の提案を行った。地域の方による環境整備が実施され、被害が減少した。既設置済みの広域防護柵の延長が行われ、活動の結果を情報提供した。R2年度は8～12月地域主体での藪刈り共同作業が行われた。	a,b
6	秦野市 平沢小原地区	イノシシ	ドローンによる3D撮影及び赤外線カメラ撮影結果と集落環境調査結果等により対策を提案した。罾の移設や囲いわなの設置、個人による電気柵設置等が行われ捕獲推進につながった。この活動を機に市による地域ぐるみ対策の立ち上げ支援活動（R2年度3地区）や、ICT機器を使った捕獲の省力化、防護柵設置等の取り組みが他地域に広がっている。	a,b,d
7	小田原市 上曾我、曾我大沢地区	イノシシ、シカ	集落環境調査等の結果をもとに対策の提案を行った。防護柵の設置が行われ、点検を地域主体で行うようになった。11月に地元小学校でのイノシシ教室が開かれた。	a,b,d

◆ 平成30年度～【5地区】

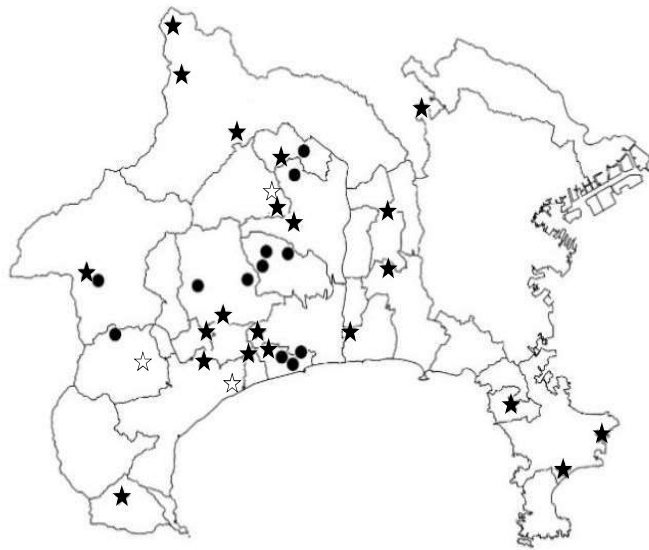
項番	地区名	主な対象鳥獣	令和3年3月末現在の取組状況	選定の視点
1	横須賀市 東浦賀町 2丁目地区	サギ	サギの生息状況等の調査を踏まえ、勉強会で再度大規模な営巣による被害が生じた場合の対策案を周知した。大規模な営巣が無く糞被害が減少している。	a,b
2	愛川町 田代(平山)地区	イノシシ	集落環境調査の結果等をもとに地域と協力して既存の広域防護柵の補修や箱わなの追加設置が行なわれた。令和元年度は情報提供等によるフォローアップを行った。	a,b
3	藤沢市 葛原地区	ノウサギ等	集落環境調査の結果等をもとに、農業技術センターと協力して電気柵の展示ほを設置し、多様な営農形態でも実施できる対策ポイント等を資料配布した。情報提供等によるフォローアップを行った。	a,b,d
4	大磯町 生沢・寺坂地区	イノシシ ハクビシン等	集落環境調査の結果等をもとに農業技術センターと協力して電気柵の展示ほを設置し、町、JAと連携して果樹の対策に係る技術指導を行った。地区外からの住民も参加して電気柵の設置や放任果樹園の整備等が進んでおり、R2年度は町主催の講習会に協力する等フォローアップを行った。	a,b,c,d

5	湯河原町 鍛冶屋・城堀 ・宮下地区	イノシシ サル	集落環境調査の結果やGPSを用いたサルの移動ルートを示し、個人での追い払いやヤブ刈りが行われ、主要な泊まり場が移動した。R元年からサル追い払員の情報収集や、町によるイノシシ・サルの捕獲へのICT活用等の取組み、R2年9月隣接地域(吉浜)でのサル追い払い研修会、イノシシ対策として区長向けに捕獲ワナの講習が行われており、2月にサル群れの加害レベルを下げるため地域協力のもと加害個体を2頭捕獲した。	a,b
---	-------------------------	------------	---	-----

◆ 平成29年度～【6地区】

項番	地区名	主な対象 鳥獣	令和3年3月末現在の取組状況	選定の 視点
1	葉山町 二子山地区	イノシシ	平成29年度から継続して自動撮影カメラによる監視及び地域への監視結果の情報提供を行っている。また、平成30年度からはイノシシ計画に基づく捕獲支援を行っており、ヤブ刈りが実施されると共に地域の実施隊による捕獲実績が上がった。令和2年度はICT技術を活用した捕獲支援の他、痕跡や捕獲記録を通じた対策の進め方等に係る助言指導等を行った。近隣市(横須賀市)においても捕獲の取り組みが始まっている。	a,b
2	相模原市 緑区 名倉地区	イノシシ シカ	名倉地域の5集落が同時に対策を始め、自治会により自営組織として自動撮影カメラの設置や捕獲檻の管理がなされている。 年1回の会合に出席し助言指導を継続するとともに、アドバイザー研修の受け入れ等に協力を得ている。	a,d
3	平塚市 土沢地区	イノシシ シカ	国庫交付金を活用したワイヤーメッシュ柵の設置により、近隣での捕獲が容易となり、他地域のイノシシ、シカの動きが明確となった。 順次、行われる広域な環境調査の実施と対策の提案より防護柵の設置や、地域で見回りをするワナ設置、隣接ゴルフ場を含めた捕獲活動等が行われており、引き続きフォローアップを継続している。	a,d
4	茅ヶ崎市 萩園地区 (堤地区)	アライグマ (クリハラリス)	アライグマの被害は見られなくなった。クリハラリスは事業実施後1か年経過を観察し、被害農家から高い評価が得られた。 R2年度は近隣地区(赤羽根)での簡易防護柵設置の展示ほが設置され、12月に芹沢でアライグマ捕獲技術の指導等の要請に対応する等、対策の広がりがある。	a,c
5	二宮町 一色地区	イノシシ シカ	防護柵設置講習会を通じて地区内で柵が設置された。 活動結果は協議会を通じて情報提供され、近隣地区(中里)での防護柵の設置につながった。R2年度は協議会で町全体の被害場所の確認や対策の検討、防護柵の設置等、地域ぐるみの対策の波及につながっている。	a,d
6	大井町 高尾地区	イノシシ シカ ハクビシン	農地周辺のヤブ刈りが行われ、新規の防護柵の設置や既存の電気柵の改善が見られ、捕獲活動の実績も上がった。フォローアップとして集落環境調査や自治会との情報交換を適宜行った。	a,d

【参考】地域ぐるみの鳥獣被害対策の状況



凡例

- : H24 年度～H28 年度の取組地域
- ★ : H29～R 2 年度選定重点取組地区
- ☆ : R 3 年度選定重点取組地区

(4) これまでの取組の成果

- ・鳥獣被害対策の知識の普及、啓発が進むとともに、3つの基本対策（集落環境整備、防護対策及び捕獲）に対する共通理解が深まった。
- ・いくつかの地域で地域ぐるみの対策に取り組む体制が構築された。
- ・「自動撮影カメラの映像の分析に基づいたアドバイスの提供を受けてわな捕獲が進んだ、防護柵の設置の仕方について指導を受けて被害がなくなった」などの声が聞かれる。
- ・ドローンなどの新技術の導入により、対策の推進にかかる負担が軽減された。
- ・重点取組地区の隣接地等において、当該自治体が地域ぐるみの対策を取り入れて鳥獣被害対策を実施する例が出てきている。

2 令和2年度から始まった重点取組地区について

(1) 相模原市緑区 澤井、佐野川地区

① 地域の概要

相模原市の北西部に位置しており、鳥獣の生息域と人家が近く、近年鳥獣による被害が増加している。地域では、人口の減少や高齢化等により、十分な被害対策が実施できていないが、地域の自治会長等による対策協議会が設置され、被害対策の意識が高まっている。



② 令和2年度の取り組み内容

ア 集落環境調査

- ・令和2年5月22日 集落環境調査
- ・令和2年6月16日 集落環境調査（ドローン）
- ・令和2年6月23日 集落環境調査（ドローン）

[地域の課題]

- ・調査により動物のひそみ場となっているヤブが2カ所見つかった。
- ・イノシシの痕跡、サルの被害報告が多くみられた。
- ・サル用電気柵にしている農地が幾つか見られた。

[ドローン調査]

- ・動物のエサ場、潜み場を航空写真で表示。

イ 勉強会（コロナウイルス感染防止のため書面開催）

[対策方針]

- ・集落環境整備や電気柵設置検討会を開催しようとしたが中止となった。
- ・センサーカメラにより出没する獣種を把握する。

ウ 対策実行及び取り組み

- ・令和2年8月20日 センサーカメラを2台設置。

③ 成果

- ・地域住民による対策の必要性を認識し、住民が主体となってヤブの一つを整地した。
- ・センサーカメラ設置により、出没する鳥獣を把握することができた。
- ・今年度はコロナウイルス感染防止対策の影響で電気柵検討会、残りのヤブ刈ができなかった。

④ 今後の課題

- ・整地された場所の環境を維持していく必要がある。
- ・残りのヤブを刈り、動物に利用されないようにする。
- ・対策に適した柵を設置し、すでに設置されている柵については改善点を検討する。



1 地域概要

○地域の特徴

- ・相模原市の北西部に位置しており、鳥獣の生息域と人家が近く、近年鳥獣による被害が増加している。
- ・人口の減少や高齢化等により、十分な被害対策が実施できていないが、地域の自治会長等による対策協議会が設置され、被害対策の意識が高まっている。



2 調査結果

○聞き取り・集落環境調査

- ・イノシシとサルによる農作物被害と生活被害が多い。
- ・イノシシは明るい時間の出没、庭先での住民への被害がある。
- ・家庭菜園が多く、管理していない果樹(カキ、クリ、ユズ)、茶畑が多くある。茶畑は、イノシシのひそみ場になっているが、栽培の有無にかかわらず草管理などの対策を行っている農地もある。
- ・エサになっている木の伐採は地権者の意向で難しいものもある。
- ・改善が必要なサル用電気柵があった。

○センサーカメラ調査

- ・8月に設置後、イノシシの撮影は10月までだった。また、サルの撮影は10月の1回のみ。

3 取り組み

○集落環境調査の結果報告と勉強会(書面開催)

- ・被害状況の確認
→ドローンの空撮結果とセンサーカメラによる出没状況
- ・電気柵の改善点について
→書面にて改善点の説明。検討会はコロナウイルスの影響で中止
- ・ヤブ刈の提案
→コロナウイルスの影響で中止。後日、2カ所あった大きなヤブの内1つは、地域住民により駐車スペースを確保するため、ヤブ刈が行われた。

サル用電気柵

電気柵を設置したのに被害に遭う

- 電気柵の設置場所が間違っていないか？
- ガイシの向きは外(動物)側に取り付けていますか？
- 管理が不足していませんか？
- 夜(昼)だけ通電していませんか？
- 電線にたるみはありませんか？
- 支柱はしっかり刺さっていますか？
- 隙間はありますか？
- 地形に合わせて張ってありますか？

登って侵入
できれば3m以上建たせましょう。(鉄柱カ 220cm、幅柱ビ 220cm)

隙間からの侵入
1段目のガイシの高さは10cmにしましょう。

飛び込んで侵入
枝打ち、伐採をしましょう。

定期的に通電をチェックしましょう。

- ✓ 土が乾燥しても4000ボルト以上
- ✓ 24時間通電
- ✓ 漏電と絶縁に注意

17500ボルト

有効な防護柵設置でサルが侵入できない採食不可能な農地を増やしましょう。

既存柵を有効利用
電線で補強する

電気柵を追加

上下からの侵入をガード
ネット柵・ネット型電気柵、ワイヤーメッシュ柵・ネット柵、ネット型電気柵

おしる用心棒
侵入防止効果の高い電気柵。
ワイヤーメッシュ柵と電気柵に同時に電流が流れます。
支柱にも電流が流れ、サルは支柱を登れません。

ホームセンターで資材購入ができ、自作可能です。

侵入防止効果の高い電気柵の設置例

- 1段目 10cm
- 2段目 10cm
- 3段目 15cm
- 4段目 15cm

ワイヤーメッシュ柵と電気柵の隙間に注意!!!

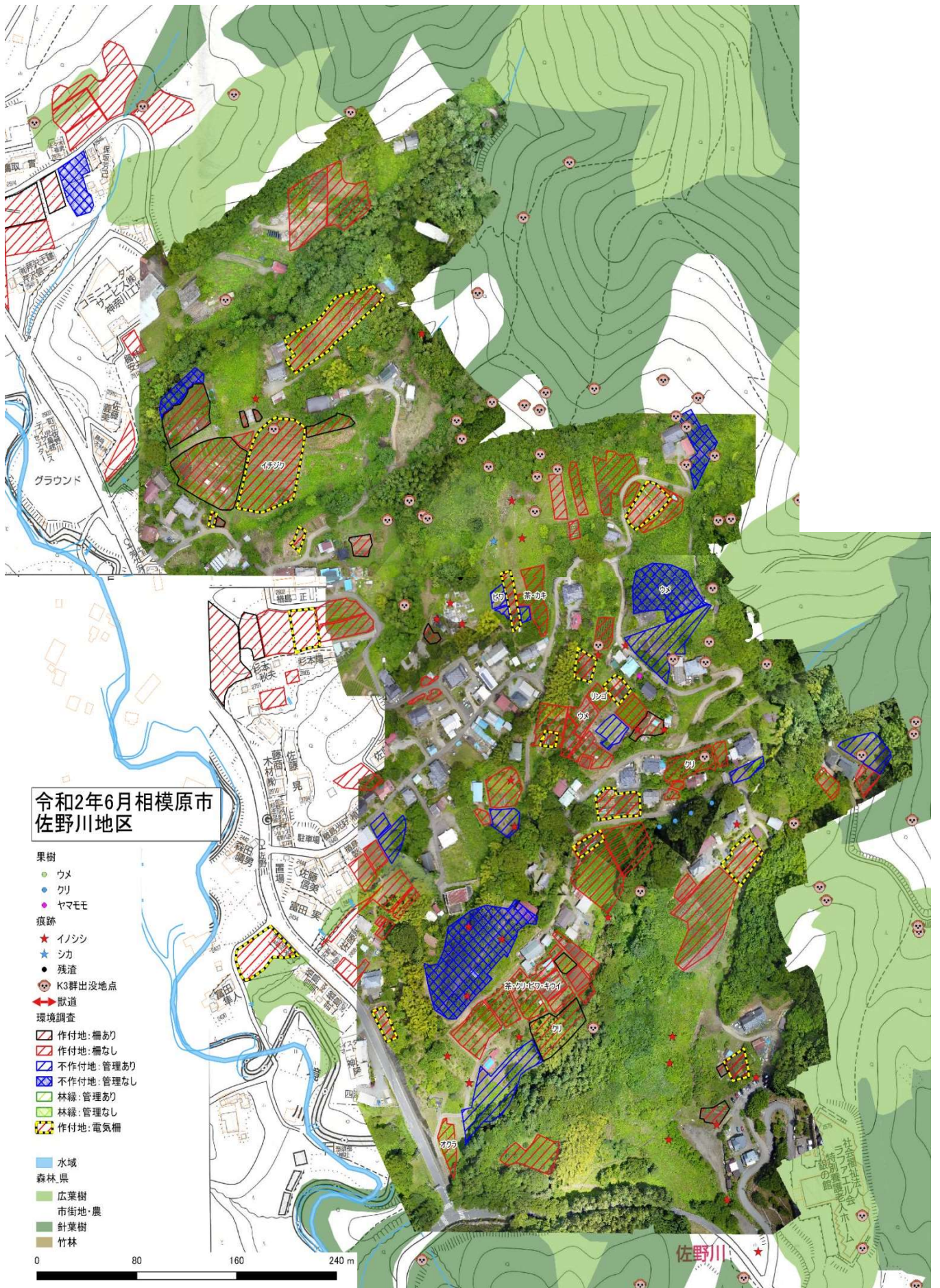
対象動物 イノシシ

4 今後に向けて

- ・整地された場所の環境継続についての講習会も含めて電気柵の検討会及びもう1カ所のヤブ刈は令和3年度にタイミングを見計らって行う必要がある。

○ドローンによる集落内の撮影

・動物の利用箇所、潜み場を航空写真で表示。



(2) 横須賀市津久井地区

① 地域の概要

横須賀市は神奈川県南東部の三浦半島中心部に位置し、市域の大半は丘陵地からなるため、緑も多く自然環境に恵まれ、豊かな農産物の産地として知られている。津久井地区では、すでにスイカネットと弾ポールで畑を囲う鳥害対策が行われているが、4～5年前からノウサギによるキャベツを中心とした秋冬春野菜への被害が問題となっている。今後、生息数の増加による農業被害の拡大が懸念される。

② 令和2年度の取り組み内容

ア 現地調査

- ・令和2年4月23日 聞き取りおよび痕跡調査
- ・令和2年4月28日 センサーカメラの設置
- ・令和2年5月28日 集落環境調査（ドローン）

[地域の課題]

- ・坊田入を囲む緑地が繁殖場所および移動ルートとなっている。
- ・環境整備が困難なほどノウサギが農作物を餌場として利用している。
- ・ノウサギ以外の小型動物による被害が認識されているか調査が必要。

[対策方針]

- ・設置予定の展示ほ場での技術的支援。
- ・JA よこすか葉山、横須賀市、農業技術センター三浦半島地区事務所及び JA 神奈川中央会と被害状況を共有する。

イ 対策実行および取り組み

- ・令和2年8月4日 キャベツ苗床予定ほ場のネット柵の設置
- ・令和2年9月2日 キャベツ苗床予定ほ場のネット柵の設置
- ・令和2年10月5日 痕跡調査および展示ほ周辺の藪刈り
- ・令和3年1月26日 回覧およびアンケート調査



③ 成果

- ・ネット柵の設置によりキャベツ苗への被害は発生しなかった。
- ・展示ほを見て藪に近い側にネット柵を設置し、被害が減少した生産者がいる。
- ・藪刈りを実施したことでノウサギおよび他の野生動物出没が減少した。また、地区内の別の場所での藪刈りが進んだ。

④ 今後の課題

- ・コロナウイルスの影響により勉強会等が未開催のため、対策の情報共有の場を設ける
- ・ノウサギの被害状況は認識しているが、気運の構築が進まなかった。
- ・生産者から「苗畑では防げたが、定植後に被害が発生した。対策費用をかけるのが困難。」という意見があり、適正な対策について関係機関と提案していく。
- ・ノウサギ以外による被害の有無の調査が必要。

令和2年度重点取り組み地区における被害防止対策

— 神奈川県横須賀市津久井坊田入 —

環境調査を経て、地域ぐるみで鳥獣被害対策を実施する気運を構築

地域概要

■ 対象 ノウサギ

■ 地域の特徴

神奈川県南東部の三浦半島中心部に位置し、市域の大半は丘陵地からなり、緑も多く、自然環境に恵まれた豊かな農産物の産地である。津久井地区では、既にネット柵で畑を囲う鳥害対策が行われているが、4～5年前からノウサギによるキャベツを中心とした秋冬春野菜への食害が問題となっている。今後、生息数の増加による農業被害の拡大が懸念される。



「国土地理院」

経過

■ 4月 令和2年度重点取り組みを開始

- ・ 聞き取り調査
- ・ 痕跡調査
- ・ センサーカメラ設置



痕跡調査

主に撮影のあった野生鳥獣



ノウサギ

タヌキ

アライグマ

カラス

ハクビシン

■ 5月 ドローン調査



展示ほ

■ 8・9月

キャベツ苗床予定展示ほ場のネット柵設置

(農業技術センター三浦半島地区事務所の展示ほとして設置)



ネットの高さ 90cm



ネットの高さ 50cm

展示ほ生産者の声

- ・ 苗畑被害はなかったが、定植後に被害が発生し、対策費用の捻出が困難。
- ・ 設置した柵の管理は容易であった。

■ 10月

- ・ 痕跡調査
- ・ 藪刈り



ノウサギによる食害
(対策なし)



藪刈り

■ 1月 1年間の取組内容の回覧

およびアンケート調査

アンケート結果

- ・ 回答者(計7名)全員が露地野菜の生産販売者であり、野生鳥獣による被害ありと回答。
- ・ 被害を出す鳥獣は、ノウサギとヒヨドリとの回答が大多数。
- ・ 対策としては、防鳥ネットがほとんどであり、ネット柵を設置している生産者は一名のみ。

今後の課題

コロナの影響により勉強会などは開催できなかったことから、生産者へのノウサギをはじめとする鳥獣被害対策の取り組みの啓発が必要。

(3) 山北町清水、三保地区（谷ヶ地区）

① 地域の概要

山北町は神奈川県最西部に位置し、町域の大半が丹沢山地であり、丹沢大山国定公園に指定されている。清水・三保地区は丹沢山地の山麓部に位置し、その中で谷ヶ地区は清水・三保の南側、谷峨駅周辺の集落であり、4年ほど前からサル被害が出るようになった。サルの防除対策はほぼ行われていないが、本地区は丹沢個体群行動域の前線であるため、地域ぐるみでサル対策に取り組む必要がある。

② 令和2年度の取り組み内容

ア 集落環境調査及び聞き取り

- ・踏査調査 令和2年6月15日（ドローン調査も実施）

[地域の課題]

- ・集落西側の竹藪をサルがたまり場として利用している。
- ・人家の周辺にイノシシ・シカの獣道が複数ある。
- ・農地周辺に設置されている広域防護柵が令和元年度の台風で破損している。

イ 集落環境診断会及び勉強会

- ・1回目：令和2年9月24日
集落環境調査と被害対策のポイントの説明、町からサルの捕獲についての説明。
- ・2回目：令和3年3月17日
町から令和2年度のサル捕獲の結果の説明。
防護柵の設置・管理について、組織的な追い払いのやり方の説明。

[対策方針]

- ・地域住民を含めたサルの捕獲を実施し、谷ヶ地区をモデルケースとして他地域にも広げる（わなの見回り、給餌を住民が行う）。
- ・煙火による追い払いはサルが慣れてきているため、多人数による物理的な方法による追い払いも実施する。可能であれば、GPSを使ってサルの居場所確認も行う。

ウ 対策実行及び取り組み

- ・地域住民を含めたサルの捕獲が10月下旬から3月末まで行われた。

③ 成果

- ・サルの捕獲が地域で行われ、11名の住民がサル捕獲を経験することができた。
- ・全部で7頭のサルが捕獲された（5頭殺処分）。次年度も継続する予定。
- ・追い払いの機材を紹介し、ポケットショット等を購入しようという住民が増えた。

④ 今後の課題

- ・わなに慣れた個体や警戒心が高いサル個体の捕獲が難しく、仕掛けやエサなどの工夫が必要。
- ・捕獲以外の集落環境整備等、他の対策も行っていく必要がある。



1. 地域概要



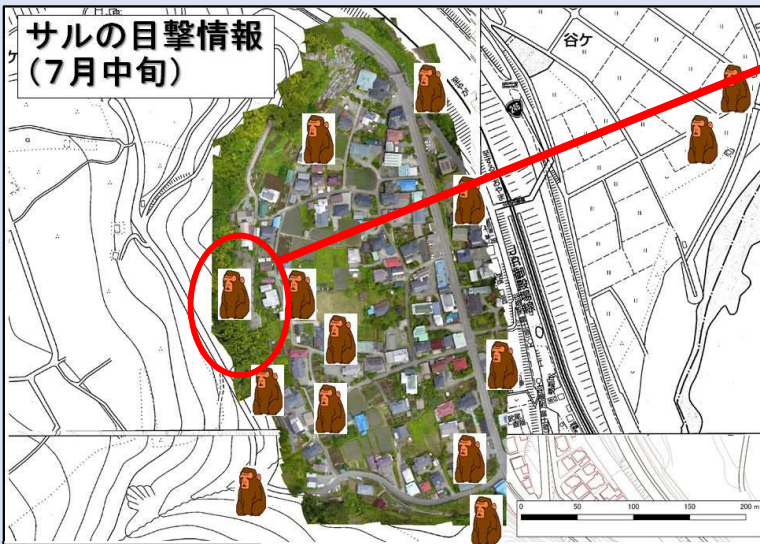
谷ヶ地区

●対象鳥獣：イノシシ、シカ、サル

●清水・三保の南側、谷峨駅周辺の集落であり、4年ほど前からサル被害が出るようになった。サルの防除対策はほぼ行われていないが、本地区は丹沢個体群行動域の前線であるため、地域ぐるみでサル対策に取り組む必要がある。

2. 調査、聞き取り

●サルの目撃情報(2020年7月)



○集落西側の竹藪をサルがたまり場として利用。
○煙火による追い払いに慣れてきている。



○集落側はサルを防ぐことができている農地は少なく、ビワ等の果樹も多数存在。

3. 取り組み

(1)勉強会



○集落環境調査
ドローン撮影結果の説明。

○環境整備、防護柵の
設置法、組織的な追い
払い法。

○ポケットショット等の
追い払い機材を使った
サルの追い払い講習。



(2)地域住民を含めたサル捕獲



○地域住民による
わなの見回りと
餌やりを実施。
(11名の住民が協力)



○10月下旬から
3月中旬までに
合計7頭のサルを
捕獲。

4. 今後の活動

○わなに慣れた個体や警戒心が高いサル個体の捕獲が難しく、仕掛けやエサなどの工夫が必要。
○捕獲以外の集落環境整備等、他の対策も行っていく必要がある。

Ⅱ 支援センターによる新たな取組事例

1 野生動物を対象とした自動撮影カメラのデータ回収及び解析

① 目的

野生動物の行動把握のため、自動撮影カメラの画像を使った出没調査を行っているが、山間部等不便な場所でのデータ回収や回収した画像の識別に労力が掛かっており省力化の必要性が高い。そのため、省力化が期待できる方法として、通信機能付自動撮影カメラとAIによる画像識別システムを使い、実用性について検討した。

② 対象地域 葉山町二子山地区周辺

③ 実施内容

ア 実施期間及び回収頻度：令和2年11月～令和3年2月、1回/月

イ 方法：

○従来の方法

撮影データについて現地で回収し、撮影された画像の調査、解析を行った。

○省力化の期待できる方法

通信機能付自動撮影カメラから送信される撮影データについて、クラウドサービスにアクセスし、AIによる画像識別システムの識別結果を確認後、データをダウンロード、撮影された画像の調査、解析を行った。

ウ 調査項目

○従来の方法及び省力化の期待できる方法

場所や月、時間帯ごとに撮影された鳥獣の種類、回数、頭数

○省力化の期待できる方法

AIによる画像識別の正答率（イノシシ：「鳥獣あり」、それ以外：「鳥獣なし」）

④ 結果と考察

撮影総数 5,488 枚のうちイノシシは 13 枚、AIによる画像識別では 13 枚中 12 枚が「鳥獣あり」で正答、1 枚が「鳥獣なし」の誤判別で、正答率は約 90%であった。それ以外の「鳥獣なし」は、正答率約 97%であった。誤判別は昼が「鳥獣なし」、夜が「鳥獣あり」とする傾向があった。

今回の調査では正答率の高い結果となったが、イノシシの撮影枚数が 13 枚と少なく、撮影は夜間であったことから、実用性の検討にはより多くの昼夜に撮影されたイノシシ画像を用いて調査する必要があると考えられた。

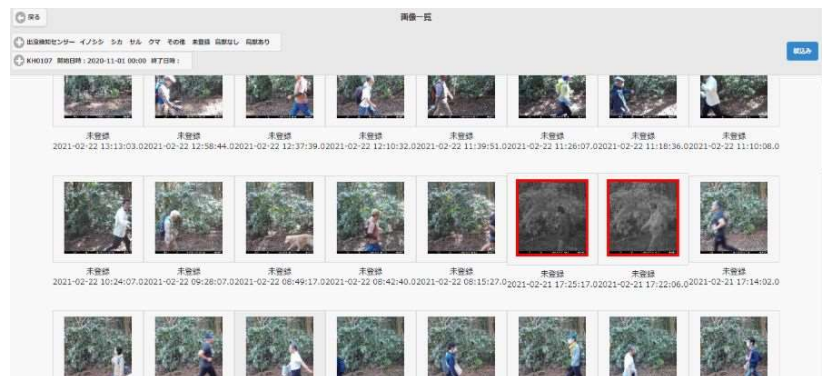


図 画像一覧表示画面（赤囲が「鳥獣あり」と誤判断された画像）

2 農林業地域に隣接した市街地に出没する野生動物の傾向と対策

(1) イノシシ

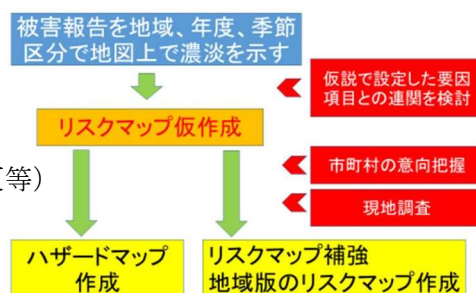
① 目的

イノシシによる突発的な市街地出没が増加傾向であり、関係機関による連携した緊急対応のため、出没の原因と傾向を把握し、対策等の基礎資料とする。

② 対象地域 相模原市、小田原市、箱根町

③ 使用データと分析内容

- 生活被害報告（市町村から、H18～30年度）
- 気象条件（暴風雨、積雪、日照時間）
- 地形（傾斜角度から丘陵地を想定）
- 鳥獣保護区等の位置図（銃猟禁止区域の変更等）
- 公園、道路、線路等の都市開発
- （参考）堅果類の豊凶調査
- 市町村からの聞き取り
- 現地調査



④ 生活被害件数の分析結果

- 市町毎で年次変動が異なるため個別の要因を検討する。
- 季節的な変動から、その時期の餌、農作物などの誘引元を現地調査し考察する。
- 天候変動は降雨、積雪等に対して目立った傾向はないが、日照時間は堅果類の豊凶と関係している。
- 等高線（傾斜角度）15度近辺が生息環境目安ではないか。
- 社会的変動は、圏央道開設直後だけ中沢という地区が多かった。

⑤ リスクマップとハザードマップ作成

ア リスクマップ

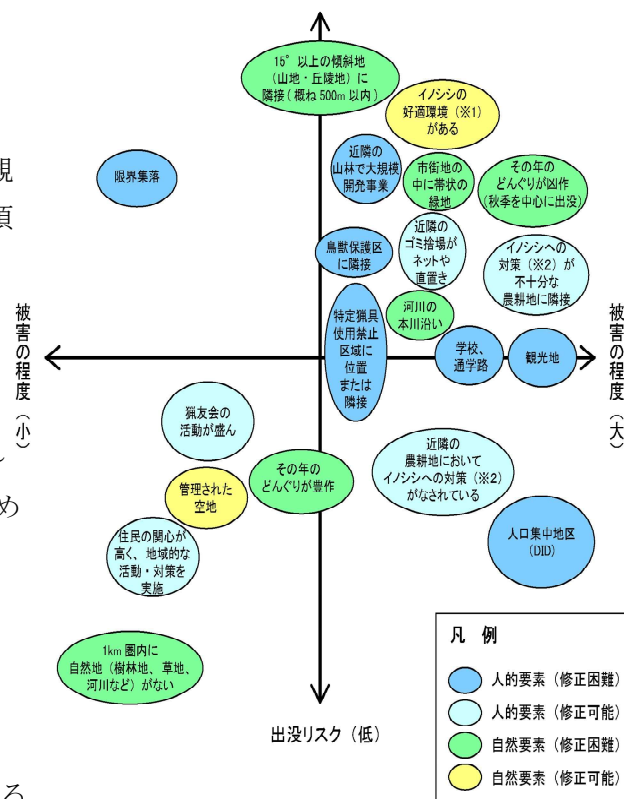
「15度以上の傾斜地」、「どんぐりの豊凶」、「植生」等の8項目の自然的な要素、「観光地」「大規模開発」「農林地付近」等の12項目について、被害への影響4区分に配置し作成し、地域条件によって加除修正し作成。

イ ハザードマップ

GISソフトで「山麓境界線引き」「段丘崖や段丘開折谷囲む」。次に、起点からの150～500m圏内（「特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン（環境省；2010）」から算出）でリスクマップの条件で絞込み、段階付けをした。

ウ 今後の予定

- 汎用性や妥当性を確認する。
- ハザードマップの精度を地域毎で確認をする。



(2) サル

① 目的

サルによる市街地での悪質な行動が増加傾向であり、従来の群れ管理の改善のため、関係者からの情報と県のモニタリング調査から原因や傾向を把握し、地域が行う事前予測や対策等の基礎資料とする。

② 対象地域（対象群） 湯河原町（T1）

③ 使用データと分析内容

- ・生活被害報告（市町村から、H18～30年度）
- ・県モニタリング調査報告(GISデータ H18～R元年度)
- ・アニマルマップ位置情報（H30年度～）
- ・追い払い員の活動報告（H30年度～）
- ・市町村からの聞き取り

④ 結果と考察

ア 年

- ・年次変動は、ドングリの豊凶が行動範囲に影響している可能性がある。

イ 季節（期）

- ・春(3, 4, 5月)…メスは出産時期であり動きませんが、オスは花の新芽や若葉を求めて幅広く動きまわる。家屋侵入や家財の破壊の被害が中心。

➢ 出没場所は人気がなく静かな地域で、出産に適している可能性がある。

- ・夏(6, 7, 8月)…山の餌が乏しく、農作物・果物を求めて農園や庭木中心に広範囲に出没する。被害は夏野菜等（家庭菜園含む）が多い。

- ・秋(9, 10, 11月)…ドングリ等の餌が山にあるが、オスはメスを探して広く出没する。被害は農地、果樹園を中心とした広範囲。

➢ 2019年と2020年の出没の差が、泊り場対策に伴う変化の可能性はある。

- ・冬(12, 1, 2月)…斜面は日当たりが良く、餌となるミカン園から動かない。家屋侵入がある。

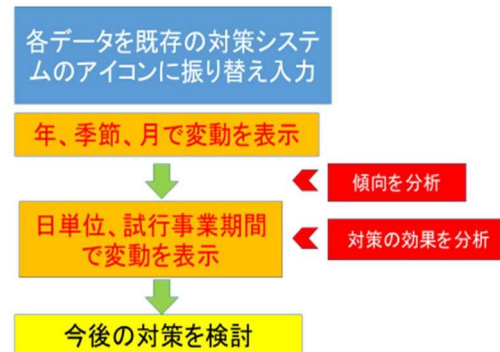
➢ 擁壁等で追い払い作業が難しいことも影響。

ウ 日（追い払いの影響等）

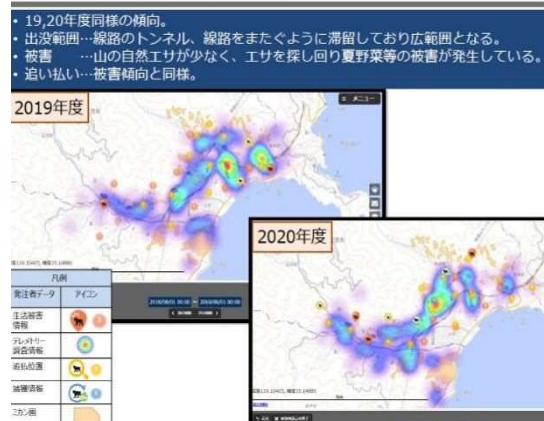
- ・追い払いでは近くの果樹園等までしか移らない。
- ・通報後の早期の追い払いが効果的
- ・移動しそうな領域と追い払い方向が影響する
- ・1日では動かなくても、連日やると移動する。

⑤ 今後の予定

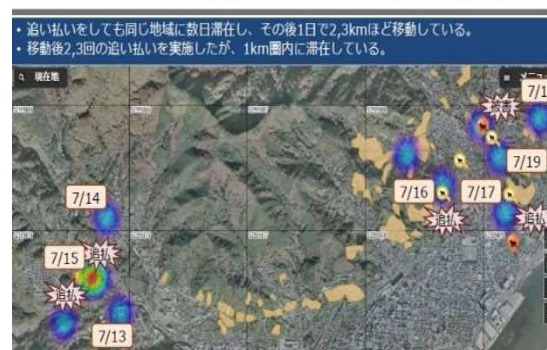
- ・追い払いの重点的な実施や捕獲ワナを置く「地点の抽出」、防護柵や追い払い、加害個体捕獲等の「対策の効果の検証」等を行うため活用する。



2.10 季節傾向 2期(夏)の比較



4.5 サル出没・追い払い事例5 (2020年7月13日～1週間追跡)



3 クリハラリスを対象とした多頭捕獲罠の試行

① 目的

「地域ぐるみの鳥獣被害対策の推進」にあたり、専門的観点からの技術的支援に資するため、多頭捕獲罠（以下、「多頭わな」という。）及び従来型捕獲罠（以下、「従来わな」という。）を使ったクリハラリスの効率的な捕獲方法を検討すること。

② 対象地域

横浜市戸塚区舞岡公園内

③ 実施内容

- ア 実施期間：設置場所① 餌付け（大豆、落花生、ミカン） 11月9日～1月3日
捕獲 1月4日～2月5日（土日祝日を除く）
設置場所② 餌付け（ミカン） 2月18日～2月28日
捕獲 3月1日～3月9日（土日を除く）

イ 方法：多頭わな（型式H770mm×W900mm×D900mm）1台、
従来わな（H130mm×W130mm×D360mm、フレーム高さ240mm）3台、
それぞれにセンサーカメラを設置。
1月25日以降設置場所①でのセンサーカメラによる撮影及び捕獲が無くなったため、わな等を設置場所②に移動した。

④ 結果と考察

ア 結果

罠設置場所①：多頭わな3頭、従来わな①2頭、従来わな②1頭、従来わな③0頭
罠設置場所②：多頭わな5頭、従来わな0頭

イ 考察

多頭わなのほうが従来わなよりもエサをより多く入れることができるためクリハラリスへの誘因効果が高く捕獲効率も良いと言えるが、警戒心が強く地上に降りてこない個体や広範囲を捕獲対象とした場合は多頭わなのみでは成果が上げづらいと考えられる。

多頭わなの改良点は、複数頭捕獲されている場合に、回収箱に1頭入っていると2頭目が入りにくいことがあったため、回収箱を増設するなどして逃げ場所を増やすことが必要であると思われる。複数頭捕獲された場合に分散させて逃げ込みやすくすることで、捕獲個体の回収が容易になり作業効率が上がると考えられる。



4 ニホンザルに係る専門的な技術的支援

(1) 【S群】除去群の捕獲完了に向けた新たな捕獲手法の試行

① 目的

小田原市、箱根町内等を行動域とするS群（西湘地域個体群）は、第4次ニホンザル管理計画において平成29年度から全頭除去を目的として捕獲を進めていたが、首輪個体が残存したまま完結しておらず、捕獲罠に対する学習や加害性を有した状況であった。そこで、新たな捕獲手法を検討し、類似事例での対策に資する。

② 対象地域

- ・小田原市板橋（大型囲い罠周辺） 令和2年5月29日～9月4日
- ・箱根町役場周辺（庁舎裏非常階段） 令和2年10月6日～12月9日

③ 実施内容

事前にアライグマ専用捕獲器「ラクーンキューブ」を設置し、サルがどのような行動をとるか観察した。身体に対して罠の大きさが小さいため、罠内には入らず、エサ（落花生）を入れた筒に手を入れる行動が観察できた。

ラクーンキューブのエサを入れる筒の部分を参考に「サル用餌付け装置」を作成し大型囲い罠の外側に装着した。サルが地面に足を付けてエサを取る高さに調整し、餌付けが成功したら、足元にくくりわなを設置し捕獲を試みることにした。

また、エサ入れに手を入れると、くくりわなが作動するような罠を試行するため、まずは、バケツ型の餌付け装置を作成し、餌付けを試みた。

なお、くくりわなで捕獲をする際には、個体の処分を速やかに行う必要があるため、サルの行動観察には、通信タイプの自動撮影カメラを設置し、サルの往来をリアルタイムで確認した。

④ 結果と考察

- ・小田原市板橋：S群首輪個体が手を入れてエサをとる行動で作動する箱型のくくり罠で捕獲された。
- ・箱根町役場周辺：餌付け装置に到来していたが、捕獲は無かった。

従来の箱わなや大型わなを学習した個体については、手を使ってエサを取る行動を利用し、くくり罠による捕獲を行える可能性があることが分かった。ただし、捕獲後の迅速な対応が必要なため、実施には十分な検討と捕獲体制が必要である。



写真1. 餌付け装置



写真2. エサを取るようす



写真3. 箱根町役場で休むようす

(2) 【H群】カンキツ園における効果的な防護方法についての検討

① 目的

カンキツに食害を及ぼすサルの行動を抑制し、農業者が導入しやすい効果的な防護技術について検討する。

② 対象地域

小田原市石橋のカンキツ園（外周約60m、2.5a、18樹）

③ 実施内容

既存のネット柵の支柱を補強し、新たにネット（漁網、高さ道路面2m、別園隣接面4m）及び電気防護柵（ネットの上から5、10、10cm間隔3段）の複合柵を設置した。ネット柵の地際部分は単管パイプの廃材を繋げて固定した。

作業労力の比較対照として、県農業技術センターによる「ネットでの‘湘南ゴールド’樹体全体の被覆によるニホンザルの食害防止効果の検討」の設置作業に参加した。

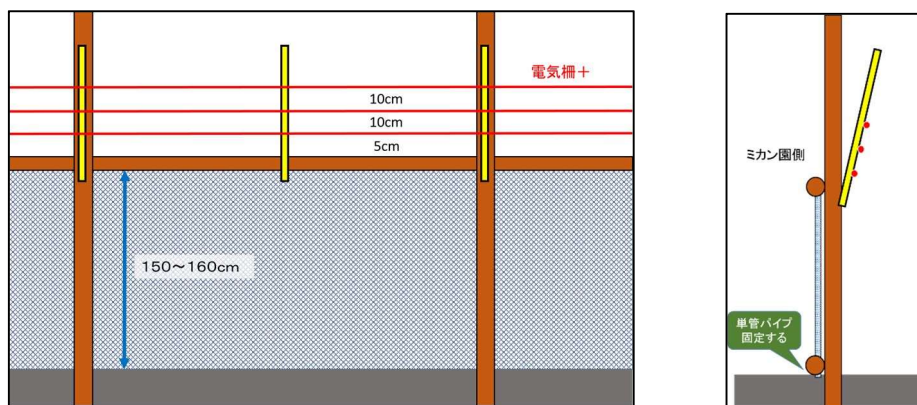


図1. 設置した柵の簡略図



写真1. 設置した電気柵



写真2. 樹体被覆

④ 結果と考察

【被害状況】

H群やハナレザルによる電気柵近隣への到来状況が発信器や目視で確認されていたが、園内へのサルの侵入はなかった。自動撮影カメラによる観察でも、サルが柵を登ろうとネットに手をかけたが、園内に入らずに飛び下りた様子が1度撮影された。

【設置作業時間】

既存の防風ネット支柱を活用したため、実際の作業時間ではないが、2人作業で6日間、電気柵設置作業以降のみで2.5日間要し、高所作業等も伴った。

【設置経費】

既存の防風ネットやイノシシ用の防護柵に追加設置する場合、電気柵 5～6 万円の追加経費でサルからの被害を回避できた。

電気柵設置			樹体被覆
作業内容	作業時間×人数	2人作業計算	2人作業計算
既存ネット支柱修繕	4時間30分×7名	15時間45分	カーテンレール等で巾着加工したサンサンネットを2人作業で被覆、裾をまとめる
漁網設置	3時間30分×9名	15時間45分	
電気柵支柱設置	3時間×5名	7時間30分	
配線、稼働確認	3時間×7名	10時間30分	
計		49時間30分	4時間
		電気柵以降18時間	(2人作業18樹)

片浦地区のミカン園の多くは急斜面に段々にあるため、作業時間及び経費が余計にかかる。鳥類被害が懸念される場所では、より軽作業である「樹体被覆」を選択肢の1つとして対策を検討されるとよい。

(3) 【T1群】加害個体緊急捕獲（業務委託）

① 目的

県内に生息するニホンザルの群れのうち、地域個体群の適正な管理上障害となっており、かつ、複数の市町村に出没し加害が問題になっている個体について早急な対応が必要であり、銃器（麻醉銃を含む）による捕獲を行う。

② 対象地域（対象群）

湯河原町（T1群）

③ 実施内容

ア 加害個体の選定と捕獲許可

支援Cで調査、特定していたT1群の中にいる加害個体オトナオス2頭、ハナレザルの加害個体オトナオス1頭について捕獲許可を得た。

イ 捕獲実施場所の選定と誘因

GPSデータを参考にT1群がよく利用する場所を確認し、湯河原町の協力を得て、銃器捕獲を実施するのに適した場所を現地下見した。委託業者が複数箇所選定し、土地所有者の承諾を得られた場所でエサ（廃果ミカン）による誘因を行い、自動撮影カメラで誘因状況を確認した。エサは他の動物に食べられないよう、また、個体の観察がしやすいように、かごに入れて木の上に設置した。また、射手が隠れるためのブラインドテントを慣らすため、事前に設置した。

【捕獲実施場所の選定条件】

- ・射撃方向に弾を止める地面（バックストップ）がある。
- ・住宅地から適切な距離がある。
- ・サルが日常的に利用している。
- ・見通しが良い。
- ・射手が待機する場所から射撃対象地点まで、銃器の場合は30m以上、麻醉銃ならば15m程度の距離がとれる。



写真1. ブラインドテントと射撃対象



写真2. 誘因餌を食べる加害個体

ウ 捕獲作業

射手はT 1群の利用が最も多い誘因場所のブラインドテント内で待機し、誘因場所に訪問する群れの動きを観察した。対象個体を確認した際に射撃をした。2月17日11:25に1頭目に命中し、その場に倒れた。他の個体は逃走。11:40頃に射手がブラインドテントから出て、捕獲個体の回収に向かったところ、もう1頭の対象個体が射手に威嚇しながら接近してきたため、射撃し捕獲した。捕獲個体は支援Cが現地で確認し、対象個体と判断した。

ハナレザルの加害個体1頭は、誘因場所へ姿を見せず、捕獲には至らなかった。

エ 捕獲後の経過観察

自動撮影カメラでT 1群を観察したところ、オトナオスの撮影はなく、群れ内の対象個体が除去されたと判断できた。T 1群の行動変化について、捕獲前後のGPSデータの比較、湯河原町への通報件数、群れの直接観察等により、加害個体の捕獲が群れの加害性を下げることができたかを判断する。

④ 結果と考察

本事業は、市街地に生息する群れの中の特定個体を狙撃するという難易度の高い捕獲作業となった。経験豊富な捕獲専門業者により、射撃できる捕獲地点への誘因と自動撮影カメラによる群れの行動観察を事前に行ったことが、捕獲成功に繋がったと考えられた。これまでに群れの除去で同様の方法によって成果が上がっており、特定の加害個体捕獲でも汎用性の高い方法と考えられる。

(4) 複数頭捕獲罿の試行

① 目的

設置撤去が容易な組み立て式の箱わなに、無線式のトリガー作動装置を設置し、目視による遠隔操作でわなを作動させることにより、捕獲対象個体（特に従来のわなに対する警戒心が高い個体）の複数頭捕獲を試行する。

② 対象地域

相模原市緑区佐野川地内（対象群：K 3群）

③ 実施内容

2 m × 3 m × 高さ 2 m の箱わなに無線式トリガー作動装置を取り付け。サルがわなに完全に慣れるまで十分に餌付けを行ったのち、わなから離れた場所に待機するなどして、サルがわなに入るのを目視で監視。なるべく多くの個体が入ったタイミングでわなを作動させ捕獲する事を試みた。



④ 結果と考察

3日間連続で監視作業を行い捕獲のタイミングを窺った。その結果、1日目には警戒心が高い単独のオス1頭を捕獲、3日目にはメス2頭の同時捕獲に成功した。また、捕獲対象外である発信器個体を目視で識別し、その個体がわなに入っていないタイミングで捕獲することができた。無線式リモコンは、わなから20mの距離から問題なくわなを作動させることができた。また、従来の大型わなに比べ比較的容易に設置ができ、サルの出没場所に合わせた移動が可能であることがわかった。一方で、期間中最大6頭を目視したが、同時にわなに入ったのは2頭までであり、従来の大型わなほどの多数頭捕獲は難しいと思われた。従来の箱わなとの詳しい比較は右表の通り。今回試行した方法により、警戒心の高い個体の捕獲ができる可能性があること、特定の個体を識別して捕獲できること、大型わなほどではないが複数頭の捕獲が可能であることがわかった。

	今回試行したわな (薬おりBigs(2 m × 3 m) +無線式トリガー作動装置)	大型わな (薬おりBigs(5 m × 4 m) +クラウドまるみえホカクン)	小型はこわな
値段	約50万円	約100万円～ (資材費、設置費、運搬費等 込み)	約8万円～
設置・撤去	○ 設置：6人で約2時間 撤去：6人で約30分	△ 本業務で使用した罿より 倍近くの時間がかかる	◎ 2人で作業可能
設置場所	○ 2 m × 3 m の広さと近くに 待機できる場所があれば設置可能	△ 広く平坦な場所が必要	◎ 狭い場所でも設置できる
捕獲個体識別	◎ 目視のため、広い視野で 捕獲したい個体を識別	○ 映像で確認ができるが、 周辺の頭数把握や個体識別は難しい	× 識別して捕獲はできない
捕獲頭数	○ オトナ約3頭	◎ オトナ約7頭	△ オトナ1頭
見回りなど	○ 捕獲時は無線の届く位置 にいる必要あり。見回りの 必要なし	◎ 映像を見ながらの捕獲の ためどこにいても捕獲が 可能。見回りの必要なし	△ 毎日の見回りが必要
止め刺し (薬殺の場合)	○ おとなしいサルでは吹矢でも 可能であるが、麻酔銃が 必要	△ 麻酔銃が必要。サルが動ける 範囲が広いと難しい	◎ サルが動ける範囲が狭く、 吹矢で簡単に行える

参考資料 《かながわ鳥獣被害対策支援センターの取組》

1 地域別、内容別の対応件数

令和3年3月31日現在

【地域別】

★合計★ 1,233

横須賀三浦	74
県央	187
湘南	352
県西	241
横浜川崎	70
その他	309

【内容別】

★合計★ 1,233

問合せ照会回答	296
現場での技術指導アドバイス	210
打合せ調整	389
会議等参加	52
講師	51
野生動物捕獲対応	35
現地調査	164
クマ調査	36

2 講師派遣一覧

51 回

期日	派遣先	主な参加者	実施した技術指導など
6.10	平塚市高根地区	地域住民など	ワイヤーメッシュ柵の点検指導
7.3	伊勢原市 有害鳥獣対策協議会 (書面開催)	JA 組合員など	昨年度クマ等の対応についての情報提供
7.3	JA 湘南 大山支店	JA 湘南組合員、伊勢原市職員など	侵入防止柵の点検指導
7.7	秦野市 有害鳥獣捕獲講習会	秦野市農家など	有害鳥獣に係る生態、狩猟用具の説明等

7. 8	秦野市 有害鳥獣捕獲講習会	秦野市農家など	有害鳥獣に係る生態、狩猟用具の説明等
7. 10	秦野市 有害鳥獣捕獲講習会	秦野市農家など	有害鳥獣に係る生態、狩猟用具の説明等
7. 15	秦野市 南矢名地区	ミカン部会、事業者	ワイヤーメッシュ柵設置現地との調整会議
7. 30	かながわ農業アカデミー	アカデミー生	講義「野生動物の生態と対策」
8. 28	JA あつぎ	JA 組合員、地域住民など	農作物被害を及ぼす鳥獣の生態、電気柵での被害防止対策
9. 10	平塚市 吉沢地区	平塚市職員、JA 湘南組合員	集落環境調査、QGIS での地図化指導
9. 24	JA あつぎ農業塾	塾生、JA あつぎ組合員など	鳥獣被害の紹介及び対策指導、事業者からの電気柵の紹介
9. 29	湯河原町 吉浜地区 サル追い払い実習	地域住民、町職員	サル T 1 群の出没状況と対策の概要説明、追い払いの実践
9. 30	秦野市 横野地区勉強会	地域住民、JA はだの組合員、秦野市職員	集落環境調査地図の共有、対策検討（放棄果樹の除去）
10. 1	秦野市 蓑毛地区勉強会	地域住民、JA はだの組合員、秦野市職員	集落環境調査地図の共有、対策検討（竹林除去やヤギを放す、カキの早期撤去対策）
10. 2	秦野市 八沢・柳川地区勉強会	地域住民、JA はだの組合員、秦野市職員	集落環境調査地図の共有、対策検討（藪刈り等）
10. 6	秦野市 南矢名、中野・平沢小原地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、JA はだの組合員、JA はだの職員など	捕獲檻の管理指導
10. 7	秦野市 東地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、JA はだの組合員、JA はだの職員など	餌補給指導、アニマルセンサーライト 4 台設置
10. 9	秦野市 北地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、JA はだの組合員、JA はだの職員など	捕獲檻の管理指導
10. 16	秦野市 上地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、JA はだの組合員、JA はだの職員など	捕獲檻の管理指導、アニマルセンサーライト 5 台設置
10. 18	小田原市 NPO 法人 イソネット 「くくり罫塾」	事業者、塾生、足柄農の会など	イノシシ ICT 関係の講習、捕獲強化、止め差しの方法、柵・わなの設置状況視察
10. 19	秦野市 西地区 捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、JA はだの組合員、JA はだの職員など	捕獲檻の管理指導、アニマルセンサーライト 3 台設置

10. 24	大磯町 鳥獣被害対策連続講習会	地域住民など	鳥獣被害対策講習会、地域環境点検
10. 25	大磯町 鳥獣被害対策連続講習会	地域住民など	地域環境点検
10. 26	伊勢原市 シカ柵点検とクマ痕跡調査	伊勢原市職員、東京都市大学学生	シカ柵点検、クマの痕跡調査、煙火による追い払い
11. 3	松田町 ハンター塾・松田地区	松田町民	狩猟免許、動物の生態、畏猟のやり方等講義、畏猟体験談
11. 8	松田町 ハンター塾・寄地区	松田町	狩猟免許、動物の生態、畏猟のやり方等講義、畏猟体験談
11. 11	平塚市 高根地区	平塚市	ワイヤーメッシュ柵の点検指導、倒木による破損を修繕するよう指導
11. 17	小田原市 曾我小学校	曾我小学校生徒	イノシシ教室「イノシシの生態、イノシシ・サルに出会った時の対処法」
11. 19	小田原市 JA 片浦支店	地域住民	サルの追い払い煙火講習会
11. 30	伊勢原市 大山対策協議会	伊勢原市	シカ柵点検技術指導
12. 5	大磯町 東小磯	地域住民	藪刈り技術指導
12. 23	山北町 どんぐりん	地域住民	勉強会「身近な野生動物について」
1. 17	秦野市 蓑毛	地域住民、関係機関	藪刈り技術指導
1. 20	横浜市立南舞岡小学校	南舞岡小学校生徒4年生	クリハラリス講義、痕跡調査実習
1. 21	秦野市 蓑毛地区	地域住民	煙火を用いた追い払い及びシカ・イノシシ・クマの生態について
1. 28	秦野市 菖蒲地区	地域住民	煙火を用いた追い払い及びシカ・イノシシ・クマの生態について
2. 7	秦野市 横野地区	地域住民、秦野市職員	果樹伐採、ネット柵設置作業準備
2. 13	秦野市 大倉防護柵設置作業	地域住民、農業塾生、秦野市職員、JA はだの組合員	広域電気柵の設置作業アドバイス
2. 13	秦野市 八沢地区	地域住民、秦野市職員など	竹林伐採作業指導
2. 21	秦野市 横野地区	地域住民、秦野市職員など	ネット柵の設置作業アドバイス

3. 4	二宮町 一色地区	地域住民	ワイヤーメッシュ柵の設置作業アドバイス
3. 10	秦野市立西小学校 (WEB)	西小学校生徒3年生	イノシシ教室「イノシシはなぜ人里に来るようになったか」
3. 11	秦野市農協有害鳥獣捕獲講習会	地域住民、JA はだの組合員	鳥獣の生態、猟具の取扱いについて（作業の危険性等）
3. 13	山北町 日向耕地組合	組合員、山北町職員	集落環境調査結果報告
3. 15	秦野市 横野地区勉強会	地域住民、秦野市職員など	柵設置後の管理、ドローン撮影結果、対策実施後集落環境診断結果の報告
3. 15	養豚講習会 (WEB)	養豚協会	県の対応状況説明補助
3. 19	JA はだの くくり罟講習会	秦野市	「捕獲手順について、捕獲を成功させるポイント等」
3. 19	秦野市 蓑毛地区勉強会	地域住民、秦野市職員など	実施した対策について、ドローン撮影結果、対策実施後集落環境診断結果の報告
3. 25	秦野市 柳川・八沢地区勉強会	地域住民、秦野市職員など	実施した対策について、ドローン撮影結果、対策実施後集落環境診断結果の報告
3. 28	秦野市農協 南矢名地区防護柵設置 研修会	地域住民、JA はだの組合員など	ワイヤーメッシュ柵の設置作業アドバイス
3. 31	秦野・伊勢原ニホンザル 広域対策協議会総会	伊勢原市	秦野市・伊勢原市におけるニホンザル対策について

3 委託業務一覧

- (1) 令和2年度ニホンザル生息状況調査業務
- (2) ニホンザル加害個体緊急捕獲業務
- (3) 野生生物を対象とした自動撮影カメラのデータ回収及び解析業務
- (4) 市街地に隣接した農林業地域における野生鳥獣の出没状況調査に係る業務
- (5) クリハラリスの多頭捕獲に係る調査の業務
- (6) ニホンザルの複数等捕獲の試行業務
- (7) 省力化技術の一部導入による野生動物を対象とした自動撮影カメラのデータ回収及び解析調査業務
- (8) 市街地に隣接した農林業地域におけるサル出没状況調査に係る業務
- (9) 令和2年度イノシシ捕獲業務